

「大麻事件」で会社に申し入れ！ 経営陣は責任を取れ！

本日、私たちは「大麻事件」の全容解明と再発防止、会社の管理責任を求める申し入れを行いました。

報道によると、社員2人が大麻取締法違反容疑で愛知県警に逮捕された事件で、「男性車掌と休職中の社員の計2名に大麻を譲り渡した」と供述していることが19日に明らかになりました。今回の事件では4名のJR東海社員が関係していたことになり、捜査関係者は「さらに広がっている可能性がある」と見ています。

山田社長は16日の記者会見で「私どもの会社に大麻がはびこっているわけではない」と言い切りました。理由は「対面点呼で異常がないか確認している」としていますが、現実は見抜けなかったのです。さらに「新たな再発防止策は講じない」としており、マスコミからは「危機意識がない」と指弾されています。

私たちは、このような事件はあってはならないと考えています。原因は何でしょうか？ 去年のIC乗車券不正使用などの「不祥事」と同様、職場での強権的な社員管理、ひとたびミスをすれば徹底的に責任を押しつけられ、職場から放逐される恐怖が、犯罪を生み出す根拠となっているのではないのでしょうか。ある若手社員は私たちに「出勤日は家を出るときから緊張の連続です」と訴え、勤務が終わると逃げ出すように帰宅する若い社員も多いと聞きます。まさに、社員管理の破綻が招いた事態ではないのでしょうか？

私たちは「大麻事件」を通じて、現在のJR東海の社員管理にもメスを入れるべきと考え、以下の通り申し入れました。

『申第30号』の主旨

1. 社員の大麻取締法違反容疑に対する全容を明らかにすること。
2. マスコミに「徹底調査すべき」と指摘されながらも、会社は「社内調査など新たな再発防止策を講じる予定はない」としているが、その根拠を示すこと。
3. 大麻取締法違反を発生させたことについて社会的及び社員管理の責任を経営陣は取ること。
4. コンプライアンスの観点から積極的な情報開示を行うこと。

IC乗車券不正使用、大麻事件、相次ぐ不祥事はなぜ起きている！
締め付けの社員管理の破綻！